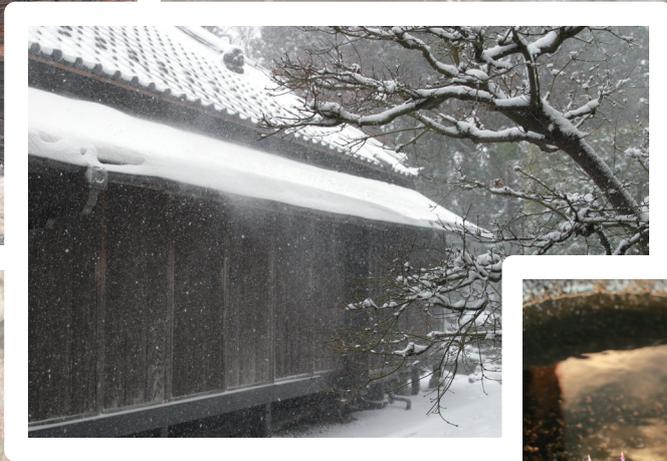


八潮市指定文化財

# 旧藤波家住宅



八潮市立資料館

## 〇はじめに

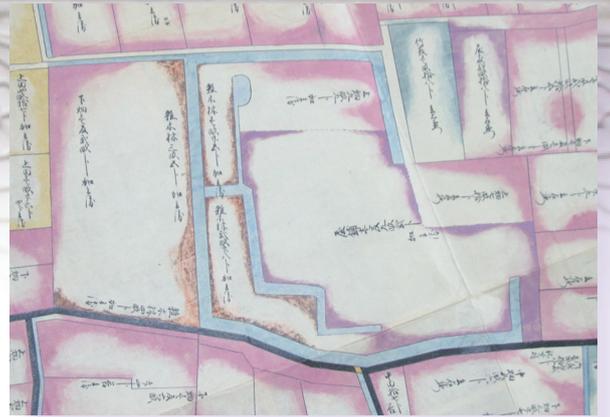
旧藤波家住宅は、明治初期の建築様式や意匠をよく残した建造物として、平成7年に市有形文化財に指定されました。

藤波家は、埼玉郡八條領後谷村の開発名主で、近世初頭に当地へ土着したと伝わる家です。当初は本間姓を名乗りますが、その後小櫃姓、18世紀末頃に藤波姓へと改姓しました。

かつては、構堀に囲まれた約4反歩(約3,960㎡)の広大な敷地を有し、現存する主屋や庭園の他、米蔵や文庫蔵、物置など多くの建物がありました。

現在の主屋は明治9年(1876)の建築ですが、建替え前の主屋の主要部分を踏襲した間取りをとっています。

当時としては珍しい瓦葺き屋根で、開発名主としての格式と財力がしのべられます。



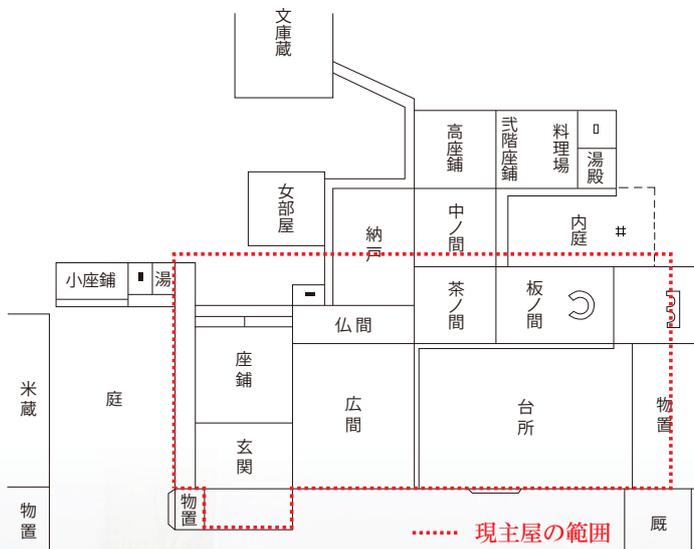
天保8年(1837)「郵鑑絵図面」藤波家屋敷地部分

## 〇規模

間口13間(約24m)、奥行5.5間(約10m)の直屋造りで、屋根は入母屋造り瓦葺きの大規模民家です。直屋造りは、県内で多く見られる民家形式ですが、市域は、主屋の前面や背面の一部を突き出す角屋形式の多いことが特色とされており、藤波家も、角屋形式の旧主屋を建替える際、直屋造りに改めています。

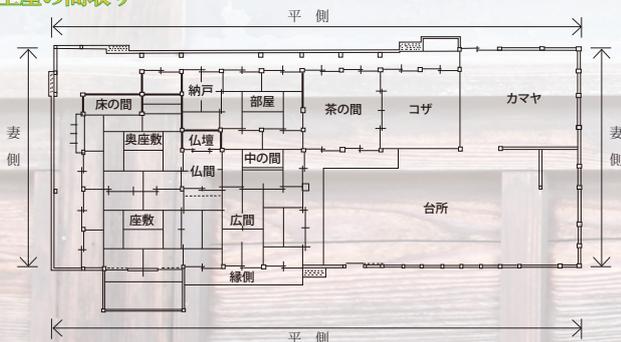
## 〇間取りの変遷

### 旧主屋の間取り



文政年間(1818~1830)「百姓家所々住居図」より作成した旧主屋の間取り

### 現主屋の間取り



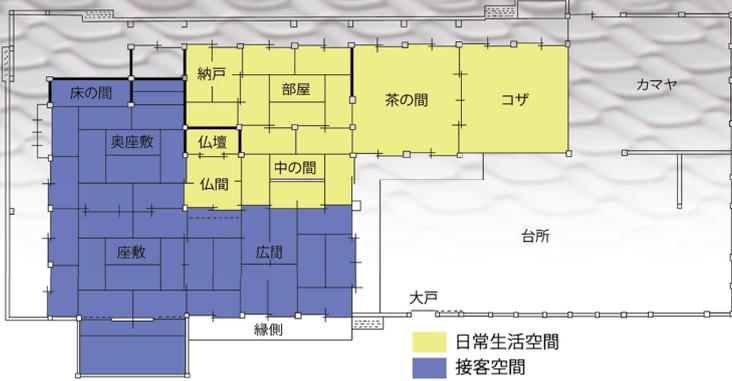
現在の旧藤波家住宅は、明治9年(1876)の建築です。間取りは、建替え前の旧主屋の間取りを踏襲し、建築部材も旧主屋の部材を一部再利用しています。

左図は、旧主屋(間口14間、奥行5間)の間取り図に現主屋の範囲を赤点線で示したものです。主屋主要部の規模はほぼ同じですが、旧主屋は、背面中央部が大きく張り出した角屋形式であったことが見てとれます。

八潮市域の民家は、角屋造りの多いことが特色とされます。その理由としては、埼玉県他地域や神奈川県の上層農家によく見られる六間取り(床上6室を配する間取り)民家がほとんどなく、大規模民家でも、四間取りの形式から発展した間取りであったことがあげられます。そのため、日常居住空間を確保する必要性から、土間背部に張り出しや角を増築し部屋を設ける家が多かったのです。

現在の主屋は、旧主屋の主要部分をベースに、当時一般化していた鍵座敷型(床上妻側の奥にトコを設ける形式)の間取り形式を採用し、直屋に改めています。

## ○部屋と意匠



### ○ 日常生活空間

**コザ**… 主に炊事をする場所です。今は囲炉裏が設けられていますが、かつては加熱調理を行うためのカマドが置かれていました。

**茶の間**… この家の居間にあたる部屋です。8畳ほどの広さがあり、家族が食事をとる場として使われました。床は板張り(かつては畳敷き)、天井は中2階の床組が露出した根太天井で、天井高が低く全体的に狭い印象を受けます。

**部屋**… 畳敷8畳の部屋で、家族の寝室に使われていました。床は畳敷きで、天井は、「茶の間」と同じ根太天井です。

**中の間**… 普段は家族の寝室にも使われましたが、大勢の人が集まる時などには、隣室の広間・仏間とつなげて20畳の接客空間として用いられました。そのため、それぞれの部屋との境に柱は立てず、脱着の容易な障子で仕切られています。

**納戸**… 家の収納スペースとして使われる部屋です。天井上部には中2階へ通じる開口部があり、下に階段箆笥が置かれています。

### ○ 接客空間

**広間**… この家の中心をなす部屋です。12畳の畳敷きで、主に大勢の人が集まる時に使われました。天井は、梁から吊り下げた竿縁天井を用いて十分な天井高を確保し、広くすっきりとした空間を演出しています。

**座敷**… 式台玄関に接する10畳の部屋です。この部屋と隣の「奥座敷」は、大切な客人を接待する時に使われました。隣室とは襖で仕切れ、天井は竿縁天井、欄間には吹寄せの菱をあしらひ、格調高い部屋に仕上げられています。



広間



座敷・奥座敷



床の間・違棚



付書院



書院欄間の透かし彫

**奥座敷**… この家で最も格式高い部屋です。内部は、床の間・違棚・付書院を設けた書院造りになっており、書院欄間の透かし彫や手の込んだ組子障子など、優れた意匠をみることができます。

**式台玄関**… この家の玄関です。家人が普段出入りする時は「大戸」を利用しますが、客人の出入りにはこの玄関が使われました。玄関内部の漆喰壁は、俗に「鏡面仕上げ」と呼ばれる



式台玄関



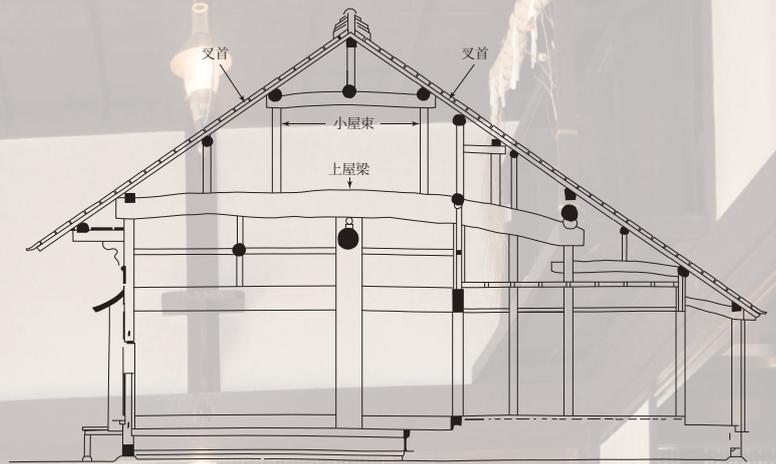
玄関内部の鏡面仕上げ

高度な技術が用いられており、鏡のように滑らかで光沢のある表面が特徴です。明治・大正期の職人技術の高さと藤波家の豊かな財力がうかがえる意匠です。

## ○構造

**小屋組**… 瓦葺き屋根を支える骨組は、茅葺きの屋根に多く用いられる扱首組ですが、大規模民家であるため、屋根の荷重を支える上屋梁に小屋束を立て、さらにその間に梁をわたす構造をとっています。

梁が露出した土間上部では、室内の短辺方向に一定間隔で平行する上屋梁、上屋梁と直交しそれを支える桁梁、桁梁の下で上屋梁を補強する敷梁の巨木同士が豪快に組まれた二重梁が観察できます。



床上部分断面図

**天井**… 室内には3種類の天井が使われています。最も大きな面積を占める土間には、竹を束ねた簀子天井が張られ、小屋組を隠す工夫がされています。また、家族の生活空間として使われるコザ・茶の間・部屋の各室は、中2階の床板を支える根太とそれを受ける大引の床組構造をそのまま天井とした根太天井になっています。

一方、広間・座敷・奥座敷等の接客空間には、竿縁天井を用いています。

竿縁天井は、幅1寸(約3cm)ほどの竿縁と薄い天井板からなり、直接小屋組の梁から吊り下げることによって天井が高く、洗練された広い室内を演出しています。



土間上部の二重梁



土間の簀子天井



日常生活空間の根太天井



接客空間の竿縁天井

**床組**… 床を支える床組は、3尺(約90cm)間隔で配した大引と1尺5寸(約45cm)間隔で直交する根太で構成されています。日常生活空間の内、コザや茶の間は板張りで、接客空間としても使用される中の間とその奥にあたる部屋は畳敷きとなっています。

接客空間の3室については、全て畳が敷かれています。

## ○利用案内



- 場所 埼玉県八潮市大字南後谷 763 番地 50 八潮市立資料館敷地内
- 公開日 市立資料館開館日  
※休館日は、月曜[国民の祝日・振替休日の場合は開館し、その翌日]・国民の祝日及び振替休日の翌日・年末年始・資料整理日
- 公開時間 午前9時00分から午後3時45分
- 交通 ①東武スカイツリーライン 草加駅東口より徒歩25分  
②東武スカイツリーライン 草加駅東口よりバス(八潮駅北口行・八潮駅北口行・八潮団地行・木曾根行)で手代橋バス停下車、徒歩5分  
③つくばエクスプレス 八潮駅北口よりバス(柳之宮経由草加駅東口行)で後谷住宅前バス停下車、またはバス(伊草団地経由草加駅東口行)で南後谷バス停下車、徒歩3分
- 問合せ先 八潮市立資料館  
☎ 048-997-6666 FAX 048-997-8998  
<http://www.city.yashio.lg.jp/kurashi/shisetsuguide/shiryokan/>